



後期生徒会、二度にわたってのアンケート調査

携帯電話、現状維持で持ち込み禁止に

武工新聞
第28号



Technical
News
Paper

発行日
3月24日
発行者
武工新聞部

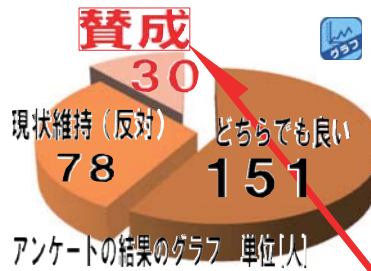


生徒の携帯持込に関する意識薄く 持込許可の条件が生徒には合わない

二月二十三日(火)、後期生徒会は全校生徒を対象に、携帯電話持込許可に関するアンケートを行った。

その結果をもとに、今後の運動の方針について後期生徒会と生徒指導部の間で話し合いが持たれた。

現在、武生工業高校は携帯電話の持ち込みを許可していない。しかし、生徒が携帯電話を持ち込んでいることを教員側が知りながら、校則で持ち込みが禁止されているのが現状である。この状況はおかしいと考える生徒の意思を反映しようと上坂生徒会長を中心に後期生徒会運動を続けてきた。



生徒指導部は、

- ・フィルタリングの設定をする。
- ・保護者に規則に関する同意書を出してもらおう。
- ・違反した場合は、一定期間生徒指導部にて預かる。

の条件を満たしていれば持ち込みを許可することを提示した。

二月、後期生徒会が全校生徒に運動、持ち込み許可についてのルールを公布し、これに関するアンケート、意思確認を行った。また、この運動に関する校内新聞を発行したあとにも再度意思確認が行われた。

生徒の意思をグラフにまとめた。「どちらでもよい」と答えた生徒は最終的に一五一名と半数以上を占めた。それに対して、規則に則り持ち込みを許可してほしいと答えた生徒は最終的に三十名と少なかった。

この結果から、生徒はルールに則り携帯電話を持ち込むことにあまり賛成していないことが分かった。生徒会と生徒指導部は、今まで通り、現状維持で携帯電話持ち込み禁止と話をまとめた。

何故?

30名/259名 賛成



も判断の理由につながっているようだ。

生徒会、校内新聞でルールを提示された教室内では、「厳しすぎる」「今の携帯電話にフィルタリングをしてまで学校に持ち込む必要性がない。」と、あまり賛成の声は出なかった。

また、ただ反対するのではなく、「どうしても必要のある生徒だけ持ち込んで、朝のSHで先生に渡して放課後返せばよい」などの具体的な案を出し、今後の携帯電話持ち込みに前向きに考えている生徒も見られた。

今回の生徒会運動は、全校生徒の意思が尊重され、個人の小さな意見でも学校を動かせるということを勉強できた本当に良い活動ではなかっただろうか。生徒会に全部任せるとは、全生徒一人ひとりが協力し、みんなで考え、みんなで学校を変えていくという姿勢が育まれている証拠だ。生徒会を中心に少しづつではあるが、本校が校訓と掲げている「心ある技術者」へと成長し、理想の学校に近づいている。これからも生徒会運動に期待してほしい。

個人の意思、学校を動かす
心ある技術者として

生徒会長に聞いた



人間味のある学校

上坂亮太が目指す

生徒会長として運動の中心となった上坂君に話を伺った。上坂会長は今回の運動の結果について、「賛成する人は多くはないと思った。しかし、携帯電話持ち込みに関しては諦めない。今後益々携帯電話の持ち込みに関しては厳しくなると思う。次の代に託し、頑張ってもらいたい。」と話した。

理想の学校像を聞くと、「全学年みんなで一致団結でき、協力しあえる人間味のある学校を目指したい」と力強く答えた。

最後に全校生徒へのメッセージとして「皆、これまで協力してくれてありがとう。この先、生徒会もきつと色々な計画を打ち出していくと思います。どうか協力をお願いします。」と笑顔で答えてくれた。

後期生徒会、上坂君、お話しします。」と笑顔で答えてくれた。